

HPVワクチンのお知らせ

このご案内は平成9年4月2日～平成24年4月1日生まれで、まだHPV(ヒトパピローマウイルス)感染症の予防接種が終わっていない方へお送りしています。母子手帳を確認して接種しましょう！接種期間を過ぎてしまうと任意接種(自費)となります。すでに接種が終了している方はご了承ください。



●対象者と公費接種が可能な期間

生年月日	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
平成9年度～平成18年度生	キャッチアップ接種(公費)	キャッチアップ接種(公費)	任意接種(自費)	任意接種(自費)	任意接種(自費)
平成19年度生	定期接種(高1)	キャッチアップ接種(公費)	任意接種(自費)	任意接種(自費)	任意接種(自費)
平成20年度生	定期接種(中3)	定期接種(高1)	任意接種(自費)	任意接種(自費)	任意接種(自費)
平成21年度生	定期接種(中2)	定期接種(中3)	定期接種(高1)	任意接種(自費)	任意接種(自費)
平成22年度生	定期接種(中1)	定期接種(中2)	定期接種(中3)	定期接種(高1)	任意接種(自費)
平成23年度生	定期接種(小6)	定期接種(中1)	定期接種(中2)	定期接種(中3)	定期接種(高1)

※平成24年度生まれの女子には標準的な接種期間となる令和7年度に予診票をお送りする予定ですが、今年度中に接種を希望する場合は子育て支援課へお問い合わせください。

●HPV(ヒトパピローマウイルス)とは

ヒトにとって特殊なウイルスではなく、多くのヒトが感染し、その一部が子宮頸がん等を発症します。100種類以上の遺伝子型がある中で、子宮頸がんの約50%～70%は、HPV16、18型感染が原因とされています。HPVに感染しても、多くの場合ウイルスが自然に検出されなくなりますが、一部が数年～十数年かけて前がん病変の変化を経て子宮頸がんを発症します。子宮頸がんは国内では年間約11,000人の女性が発症し、年間約2,900人の女性が亡くなっています。

●予防接種を受けたあとの注意点及び副反応

ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして様子を見るようにしてください。主な副反応は、発熱や局所反応(疼痛、発赤、膨張)です。これは体内でウイルスに感染して防御する仕組みが働くために起こりますが、通常数日間で治ります。高熱やけいれん等の症状が現れたときは、直ちに医師の診察を受けましょう。稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、ギランバレー症候群、血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血など)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)などが報告されています。

●予防接種による健康被害救済制度

定期の予防接種を受けたことが原因で、重い副反応がでて健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度に応じて、救済措置(医療費・医療手当・障害児養育年金・障害年金・死亡一時金・葬祭料)を受けることができます。

